

中間報告用 Lua \LaTeX テンプレートの使い方

学籍番号 発表者氏名

1 はじめに

報告会で使われるフォーマットに従った Lua \LaTeX のスタイル, `imcreport.sty` を作りました. この資料は作成したスタイルを使ったテンプレートであり, ここにはテンプレートの使い方が書かれています.

作成したスタイルは Lua \LaTeX から利用され, クラスは `ltjsarticle` が指定されていることを前提にしています. つまりこのスタイルは p \LaTeX , up \LaTeX であったり, クラスに `ltjsarticle` 以外が指定されている場合の動作を保証しません.

以下ではテンプレートのソースコード, つまり `main.tex` から抜粋してテンプレートの使い方を説明することがあります. したがってこのテンプレートの PDF とソースコードの両方を見比べながら読んでください.

2 図の挿入

Lua \LaTeX では図 1 のように, 図を挿入することができます. `\begin{figure}` の後ろに位置を指示する文字を四角カッコ `[]` を使って与えることで画像の挿入位置を指定することができます. `t`, `b`, `p`, `h` の 4 種類を指定することができ, それぞれ次のような意味を持ちます.

- `t` ページ上部に挿入
- `b` ページ下部に挿入
- `p` 新規ページとして挿入
- `h` 現在位置に挿入

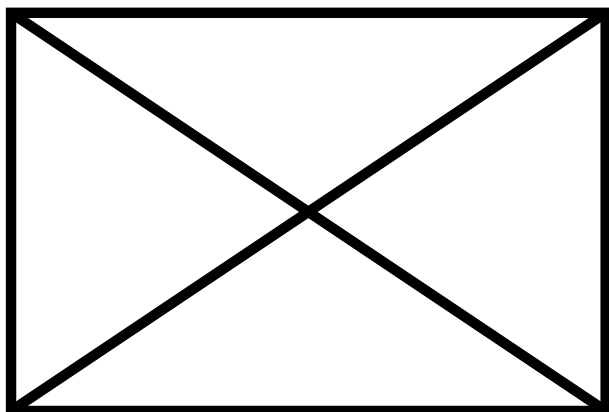


図 1 バッテン

表 1 表のタイトル

	項目 A	項目 B	項目 C	項目 D
項目 a	1	2	3	4
項目 b	5	6	7	8

ただし必ずしも指示どおりにはならず, Lua \LaTeX エンジンが見栄えのいいところに自動で移動させる場合があります. 勝手に画像を動かしてしまうと考えるか, 適当でもそれなりの位置に挿入してくれると考えるかは難しいところです……. 位置を指定しない場合は `[tbp]` として処理されます.

3 表の挿入

Lua \LaTeX で作った表を表 1 に示します. こちらも図と同様の方法で挿入位置を指定することができます. 勝手に動かされるのも同じです.

`\begin{tabular}{XXX}` の `XXX` 部分で列の整列方向と垂直線の位置を指定します. 表 1 の場合は `XXX` 部分は `c|cccc` になっています. これは表が“中央揃え”, “垂直線”, “中央揃え”, “中央揃え”, “中央揃え”, “中央揃え” の 6 列と 1 つの垂直線で構成されることを意味します. `c` が中央揃えの列, `l` (エル) が左揃えの列, `r` が右揃えの列であることを意味します. 列と違って行はあらかじめ行や垂直線の配置を指定する必要はなく, 書いた分だけ勝手に縦に伸びます. 行の区切りは `\\` で, 列の区切りは `&` です. 水平線は `\hline` で引けます. より具体的な書き方はソースコードを参照してください.

4 セクションとサブセクション

報告書では話題を分けるために見出しを使います. 主にセクション (章または節) とサブセクション (節または項) の 2 種類を使うことになるでしょう.

4.1 セクション (section)

`\section{セクション名}` で作れます. このテンプレートでは “はじめに”, “図の挿入”, “表の挿入”, “セクションとサブセクション” がセクションです.

4.2 サブセクション (subsection)

`\subsection{サブセクション名}` で作れます. このテンプレートでは “セクション (section)”, “サブセクション (subsection)” がサブセクションです.